



## 健康と温泉フォーラム 第28回月例研究会のご案内

■ 主催 NPO法人健康と温泉フォーラム 地域活性学会

■ 日時 2012年2月27日(月)13:30~16:30

■ 会場 上野・東京文化会館4F 中会議室

東京都台東区上野公園5-45 TEL 03-3828-2111 JR 上野駅公園口出て正面すぐです。

■ テーマ「温泉」に関して興味・関心を抱いている研究課題—歴史研究から現状分析まで—

講師 立教大学名誉教授 心理学者 前田 勇

### ■ 講演骨子

#### 1. 温泉地から日本を元気に！

- 1)(震災からの復興と)国内観光振興と日本人の役割
- 2)“温泉地から日本を元気にする”，そのための課題

#### 2. 「温泉旅館」の成立過程をめぐって

—日本旅館史研究の一環としての“「一夜湯治」裁定の背景と影響”—

- 1)日本旅館の形成・発展過程には明確ではない部分も多い
- 2)「一夜湯治」をめぐる争いと裁定の経緯

#### 3. 近代医療制度と「温泉」とのかかわりをめぐって

—ヘルスツーリズム研究の一環としての“「医制」における温泉の位置”—

- 1)「医制(1874<明治7>年制定)」によって、「温泉」は医療から完全に排除
- 2)ドイツ帝国における“温泉の位置づけと推移”との関連を分析する必要がある

#### 4. 温泉の維持と発展にも求められる“相応消費”の思想

—温泉を愛し、理解する人を増やすことが温泉文化維持には必要不可欠—

- 1)観光行動の変遷と温泉利用の変化
- 2)「豊かな観光」と「観光における豊かさ」の異同
- 3)「相応(応分)消費」と「責任ある消費者」

\* 「相応(応分)消費」とは、それぞれ所得・地位・役割等に釣り合った消費を心がけて行動することであり、その主体を「責任ある消費者」と称し、「相応(応分)消費」は、“可能な限り消費を押えて心の自由を広げるべし”とする“清貧の思想”とは異なり、“余裕を将来に投資せよ”という考え方で、社会を構成する人びとはそれぞれに相応しい消費を心がけるべきと言う社会文化成熟に欠かせない社会思想。



■ プログラム

「「温泉」に関して興味・関心を抱いている研究課題—歴史研究から現状分析まで」

1300 受付

1330 司会・背景説明 NPO法人健康と温泉フォーラム常任理事合田純人

1340 講演 「「温泉」に関して興味・関心を抱いている研究課題—歴史研究から現状分析まで」

立教大学名誉教授 心理学者 前田 勇

1500 休憩

1515 ディスカッション

1630 終了

- 参加費 健康と温泉フォーラム会員・地域活性学会会員 2,000円  
一般の方 3,000円  
(当日会場受付で承ります)



■ お申し込み・お問い合わせ

NPO法人健康と温泉フォーラム事務局までE-mail またはFAXにてお申し込み下さい。定員先着順40名とさせていただきます。お早めにお申し込みください。

E-mail [info@onsen-forum.jp](mailto:info@onsen-forum.jp) FAX 03-3320-0586

NPO 法人健康と温泉フォーラム事務局宛

参加申込書 第28回月例会(2012年2月27日(月))に出席します。

● お名前  
(複数可)

● 団体名

● 住所

● TEL

● FAX

● E-mail